

## <参考資料> カーボンフットプリント制度を巡る国際動向

### 1. 国際動向概観

カーボンフットプリントの取り組みはヨーロッパを中心として、アジア、北米、世界的に広がっており、現在も情報が頻繁にアップデートされている。下図の実線内は実際にラベルを表示した商品を市場に導入している国で、点線内は算定方法やラベル導入を検討中の国を示している。

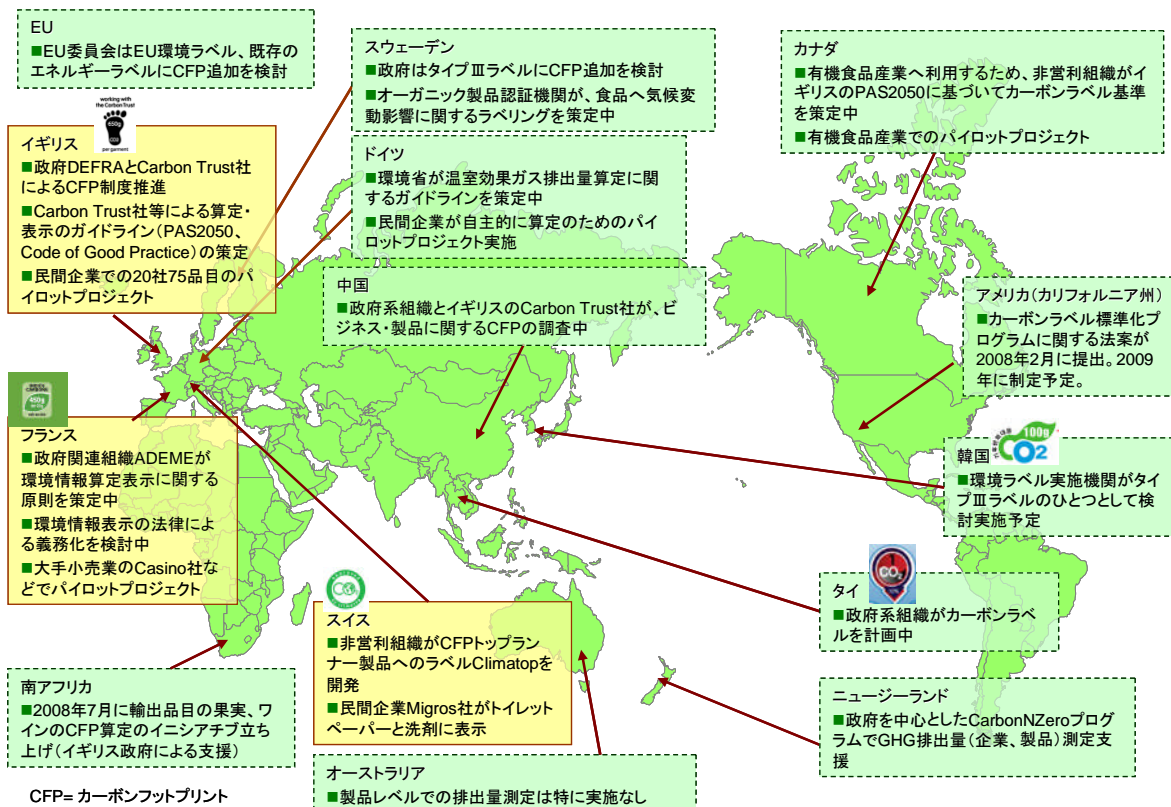
イギリスでは、世界でいち早く政府が中心となってカーボンフットプリントの算定・表示ガイドラインを策定し、民間企業 20 社でパイロットプロジェクトを行っている。

フランスでは、現在政府が算定・表示について一般原則を策定中で、まだイギリスほど取り組みが広がっていないものの、環境情報表示に関する法案策定なども並行して進んでおり、今後取り組みが広がる可能性がある。

スイスでは、カーボンフットプリントのトップランナー製品への認定ラベリングを行っており、数値自体の表示はしていない点でイギリス・フランスの取り組みとは異なる。

その他の国でも算定方法の策定などの動きがある。例えば、ドイツでは自主的に民間企業でのカーボンフットプリント算定のパイロットプロジェクトが始まっている。

以下の項目では、イギリス・フランス等、カーボンフットプリント制度に先進的に取り組んでいる国、わが国と特に関わりが大きいアジア、北米などを中心に記述する。



カーボンフットプリント 世界での動き

1 その他の国については、別途経済産業省「カーボンフットプリント制度の実用化・普及推進研究会(第3回)資料3 カーボンフットプリント海外調査報告を参照のこと

## 2. 各国の動向

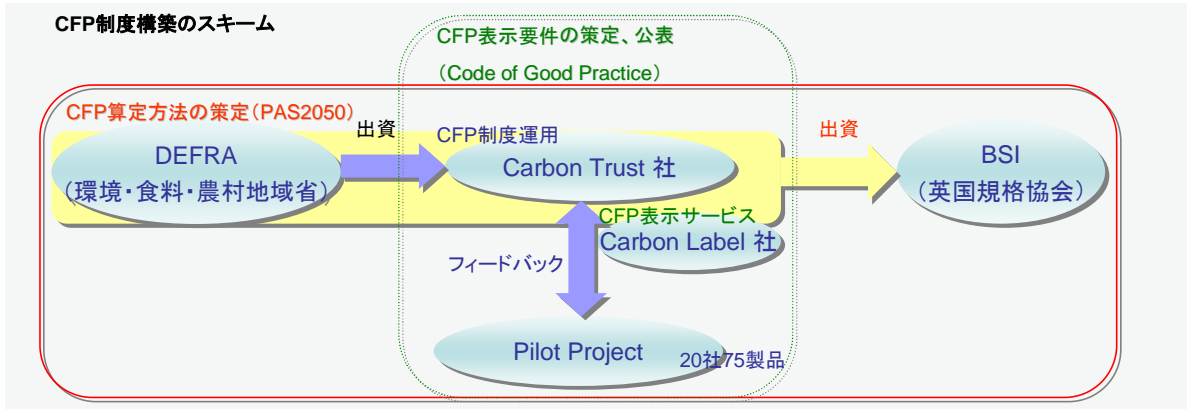
### (1) イギリスの動向

#### ① 取り組み概要

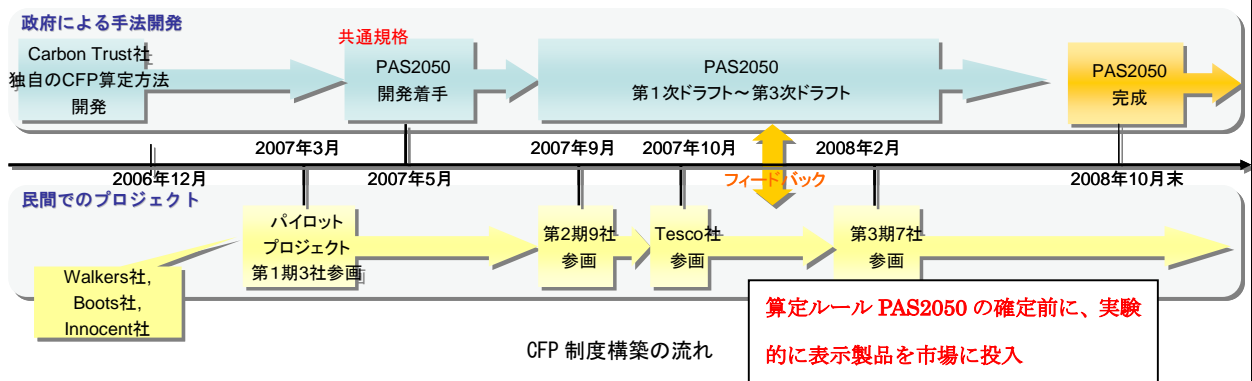
イギリスでは、政府組織である環境・食料・農林地帯省 (DEFRA) およびカーボントラスト社、英国規格協会 (BSI) がカーボンフットプリント制度に関わっている。カーボントラスト社は、政府 DEFRA 出資の非営利企業で、主に省エネ技術の開発に携わっている企業であるが、今回業務の一部として、カーボンフットプリントの算定方法構築などに取り組むことになったとしている。

これら各組織の役割をまとめたものが下図である。赤枠実線内にあるように、DEFRA とカーボントラスト社が、民間企業を巻き込んでパイロットプロジェクトを実施しながらカーボンフットプリント算定方法を開発してきた。パイロットプロジェクトでは、算定結果を実験的に市場で表示している。つまり、イギリスでは算定ルールの確定に先行して実際の市場で表示に関する実験をしている。こうして策定してきた算定方法を英国での共通規格 (PAS) にするため、2007年5月に、DEFRA とカーボントラスト社は英国の規格協会 BSI とともにこの算定方法に基づいて、共通規格「PAS2050」の開発に着手し、2008年10月末にこれが完成した。

また、下図の緑点線枠内の表示は前述の「算定」とは切り分けたかたちで、「Code of Good Practice」という表示に関する要件としてカーボントラスト社によって取りまとめられた。実務レベルでは、現在カーボントラスト社の子会社であるカーボンラベル社が表示に関するサービス・ライセンス付与などを有償で行っている。



CFP 制度構築のスキーム



CFP 制度構築の流れ

	名称	概要	策定組織	ダウンロードURL
①	PAS2050:2008	Specification for the assessment of the life cycle greenhouse gas emissions of goods and services <ul style="list-style-type: none"> <li>製品のライフサイクルGHG排出量の測定方法</li> </ul>	Carbon Trust, DEFRA, BSI	www.bsigroup.com/PAS2050
②	Guide to PAS2050	How to assess the carbon footprint of goods and services <ul style="list-style-type: none"> <li>PAS2050実施のための実践的ガイダンス</li> </ul>	Carbon Trust, DEFRA, BSI	同上
③	Code of Good Practice for Product Greenhouse Gas	Emissions and Reduction Claims Guidance to support the robust communication of product carbon footprints <ul style="list-style-type: none"> <li>PAS2050を使用して測定された製品のライフサイクルGHG排出量削減についての要件</li> <li>製品関連のライフサイクルGHG排出量と、排出量削減についての表示に関する要件</li> </ul>	Carbon Trust, Energy Savings Trust (以下は支援) Arup, One World Standards, the Pacific Institute, E4tech	http://www.carbontrust.co.uk/publications/publicationdetail.htm?productid=CTC745
④	Product Carbon footprinting	new business opportunity Experience from leading companies <ul style="list-style-type: none"> <li>パイロットプロジェクトにおけるビジネススタディ</li> </ul>	Carbon Trust	http://www.carbontrust.co.uk/publications/publicationdetail.htm?productid=CTC744

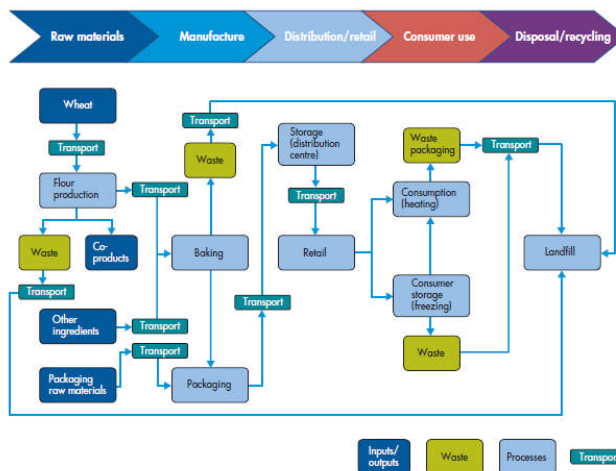
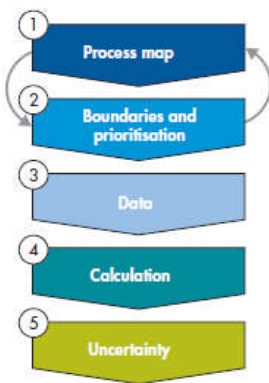
公表された資料

②算定について

カーボンフットプリント算定は、PAS2050に基づいて行う。下表はPAS2050の項目内容についてまとめたものである。同規格では、システム境界、1次データ・2次データ、排出の配分（アロケーション）などについてのルールが定められている。実務レベルでは、同時に公表された「Guide to PAS2050」に算定の事例などが記載されており、有用なものとなっている。

	項目	内容等
1	適用範囲	(一般事項)
2	引用規格	(一般事項)
3	用語及び定義	(一般事項)
4	原則及び実施	アセスメントの一般的要求事項は基本的にはISO14040、14044に従う。また14064-1の原則が示されている。
5	排出源、オフセット、及び分析単位	GHG排出源で含むべきもの、製品の炭素貯蔵、オフセット、土地利用変化の扱いなどが示されている。
6	システム境界	ライフサイクル各段階(原料、製造、輸送、保管、使用、リサイクル、最終処分等)のシステム境界、システム境界に含まないもの等が示されている。
7	データ	主要活動データ(企業所有データ)、2次データ他データの取扱に関する一般的ルールが示されている。
8	排出の配分	リサイクル、再生可能エネルギーからの排出量の配分、複数製品輸送時の配分方法他ルールが示されている。
9	製品の温室効果ガス(GHG)排出量の計算	GHG排出量の計算の一般的手順が示されている。
10	適合の宣言	宣言の範囲、適合性評価のタイプ(認証[第三者認証]、自己妥当性確認)等が示されている

PAS2050の項目と内容



CFP 算定 5つのステップ

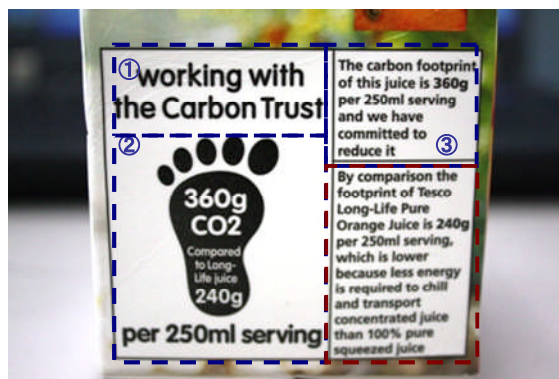
クロワッサン（パン）のプロセスマップ（例）

（出典）Guide to PAS 2050, カーボントラスト社

### ③表示について

企業は PAS2050 に基づいて、CFP 算定をカーボントラスト社などと共にやる。表示が必要な場合には、別途カーボントラスト社およびカーボンラベル社が「Code of Good Practice」に基づいて表示内容を検証することでラベル表示が可能となる。

ラベル表示内容については、必須の表記とオプションの表記があり、下図にあるように、「①カーボントラスト社との取り組み」、「②マーク<sup>2</sup>および CFP 数値<sup>3</sup>」、「③2年以内の CFP 削減コミットメント」の3つが必須の表記となっている。オプション表記では、使用方法の違いによる消費者の CFP 削減について、排出量削減割合、他商品との比較など各社さまざまな追加情報の掲載ができるようになっている。



**必須の表記:**

- ①カーボントラスト社との取り組み
- ②マークおよびCFP数値
- ③2年以内のCFP削減コミットメント

**オプション表記:**

- さまざまな追加情報掲載が可能

Tesco 社オレンジジュースのラベル表示内容

「Code of Good Practice」に公表のためのテンプレートが定められており、これによると、PCR

<sup>2</sup> 当初は下矢印の向きのマークであったが、最新は足形のマークのみとなった。

<sup>3</sup> 写真では2種類の数値(360gと240g)があるが、大きい字体のもの(360g)がその製品のカーボンフットプリントを示す。小さい自体のもの(240g)は従来品等のカーボンフットプリントを示している。

情報、どのエリアでの削減か、CFP 算定に利用した主要データ源、アロケーション、バウンダリー情報などについて公表が義務付けられている。

削減についても「Code of Good Practice」に記載されているが、削減目標を数値で定めているわけではなく、ベースライン排出量の考え方のみを定めている。削減できなかった場合は、ラベル使用ができなくなるが、悪天候など不可抗力があった場合、大きな削減を過去にした場合には積み立てルールがあり、そのような場合には許容されるとしている。

#### 1 背景情報

1.1	会社名
1.4	準拠した仕様書等
1.5	独立または第三者検証機関名およびその認定照会
1.6	検証日

#### 2 気候変動に関する企業方針

2.1	企業方針と戦略
-----	---------

#### 3 製品排出量の公表:補助情報

##### 製品番号

3.1	PAS2050に準拠して評価した製品
3.2	製品のライフサイクル全排出量
3.3	任意:ライフサイクル各フェーズにおける製品GHG排出量
3.4	任意:異なるシナリオに基づいた場合のGHG排出量
3.5	3.2-3.4の評価日

#### 4 製品排出量の削減:補助情報

4.1	PAS2050に準拠して評価した製品
4.2	ベースライン排出量
4.3	ベースライン評価日
4.4	製品のGHG削減量
4.5	削減期間
4.6	製品のGHG排出量削減のために行われている(または計画されている)取り組み
4.7	積み立てられた結果の説明
4.8	ベースライン更新の説明
4.10	不可抗力の影響説明

#### 5 バウンダリーとデータ:補助情報

5.1	製品番号
5.2	排出量評価のバウンダリーとバウンダリー決定における考え方
5.3	評価に使用した2次データのソース

#### 6 結果についての注意書き

公表データのテンプレート

#### ④パイロットプロジェクトについて

パイロットプロジェクト参加企業は、公募によって募集し 200 社以上の企業が応募した。そのうち、一定のルール（セクターのミックス、企業の大小、サプライチェーン各所、向上的な企業など）に従って、選考を行った。2008 年 2 月時点で Walkers 社（ポテトチップス）、Boots 社（シャンプー）、Innocent 社（ジュース）、Halifax 社（ウェブ口座）、Continental Clothing 社（T シャツ）など 20 社 75 品目についてのパイロットプロジェクトが実施されている。

これらプロジェクトの参加は基本的には企業の自己負担で行っており、CFP 算定は各社内の専門家、またはコンサルを雇って行っている。カーボントラスト社はテンプレートデータ、算定に関するアドバイス、ラベルの検証、付与（カーボンラベル社）などのサービスを有償で行っている。

Pioneers in product carbon footprinting			
	Milk produced from 325 farms		Web Saver, web-based savings account
	Hard landscaping products (paving stones, etc.)		Andrex toilet tissue and Huggies nappies
	Botanics brand shampoo		>500 hard landscaping products
	White granular sugar		Mey Selections Luxury All Butter Shortbread, Mey Selections Heather Honey and Mey Selections Blossom Honey
	Dairy Milk bars		12 Comfigrip, Turbo Steam and Precise Steam irons
	Sparkling and still drinks		Yoghurt from its product range
	South African fruit supplied to UK retailers		Walkers crisps
	EarthPositive® T-shirts		Fosters Lager and Bulmers Original Cider
	Carling lager		Potatoes; orange juice; light bulbs; washing detergent
	Evian® and Volvic® natural mineral water		200g and 400g punnet strawberries
	Smoothies in 250ml bottle, 1ltr carton and kids' size carton		

パイロットプロジェクト参加企業

(出典) Product Carbon footprinting new business opportunity, カーボントラスト社

パイロットプロジェクトでは、さまざまな表示媒体を利用して CFP の表示を行っている。例えば、B2B の商品では、商品カタログ、小売では商品棚、ウェブサービスでは会員ウェブ上に CFP を表示するなど各社それぞれの形態に応じた表示媒体を利用している。

ラベルの使用料はそれぞれの媒体ごとにカーボントラスト社とのライセンス契約により発生する。また、認証については、UKAS（イギリスの認定機関）が現在認証期間 5-6 社と共同で CFP 制度における認証スキームを検討中。2009 年 11 月までに公表予定としている。

Sector	Company	Products	Label display
<b>Goods</b>			
Business (B2B)	Continental Clothing	T-shirts	Sales catalogue, website
Consumer (B2C)	Pepsi/Walkers	Crisps	On-pack
	innocent	Smoothies	Website
Retail	Boots	Botanics shampoo	Point-of-sale display
	Tesco	Detergent Potatoes Orange juice Light bulbs	On-pack
<b>Services</b>			
Consumer (B2C)	HBOS/Halifax	Web Saver bank account	Website

表示媒体について

(出典) Product carbon footprinting : new business opportunity, カーボントラスト社



カタログへの表示 (Continental Clothing 社の T シャツ)

(出典) Continental Clothing 社ホームページ



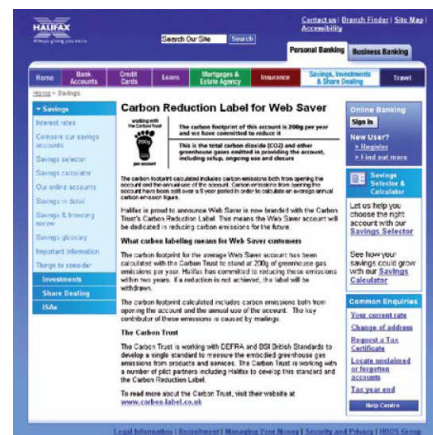
パッケージへの表示 (Walkers 社ポテトチップ)

(出典) Working with PepsiCo and Walkers, カーボントラスト社



ポスターへの表示 (小売 Boots 社シャンプー)

(出典) Boots 社 CSR 報告書



ウェブサイトでの表示 (ウェブ金融サービス Halifax 社)

(出典) Working with HBOS, カーボントラスト社

we've made some reductions...

our 250ml smoothies	Carbon (grams) March 2007	Carbon (grams) December 2007
strawberries & banana	282 grams	241 grams
mangoes & passion fruits	273 grams	227 grams
cranberries & raspberries	258 grams	217 grams
oranges, bananas & pineapples	267 grams	226 grams
pineapples, bananas & coconut	266 grams	225 grams
blackberries & blueberries	259 grams	218 grams

We are still working to reduce these numbers even more. Bit by bit.

ウェブサイトと商品棚への表示 (Innocent 社ジュース)



(出典) Innocent 社 ホームページ

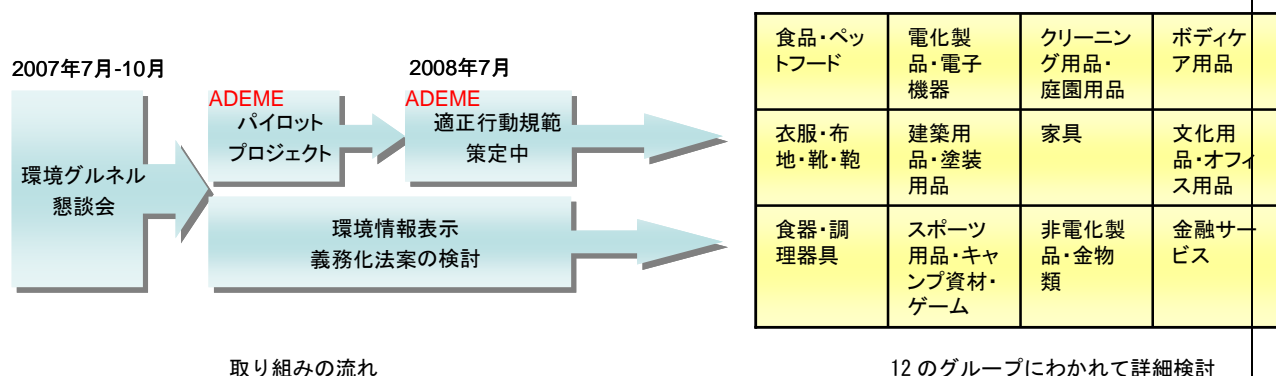
## (2) フランスの動向

### ①取り組み概要

フランスではフランス政府関連組織の環境・エネルギー管理庁（ADEME）が動いている。これは 2007 年 7 月-10 月に行われた環境政策を立案するための環境グルネル懇談会<sup>4</sup>を受けたもので、ADEME は小売業者 2 社（カジノ社、ルクレール社）において CFP 算定・表示のパイロットプロジェクトを開始し、環境情報算定・表示に関する一般的な原則である「適正行動規範」を策定している。

今後はこの「適正行動規範」に基づき、機能または環境影響が同じ 12 のグループ・業界毎（下表）にワーキンググループを設置して、環境情報算定方法等の詳細検討を行う予定としている。この「適正行動規範」では温室効果ガスだけでなく、水や農薬などその他の環境影響への指標も含めて検討を行うとしている点が一般的なカーボンフットプリント制度と異なる。

また一方、この懇談会を受けて環境情報の一般消費財への表示義務化の法案制定に向けた検討が行われている。これは、消費者に製品に関する環境情報を知ってもらうことを目的として、それらの情報を提供するシステムを 2011 年 1 月 1 日までに策定するというもので、2009 年 6 月に採択予定としている。具体的な対象商品・環境情報の中身や、誰が表示（法的義務化を含め）するか等は今後の法規命令で決定する予定としている。



### ②パイロットプロジェクトについて

ADEME は大手小売業のカジノ社とルクレール社の 2 社でパイロットプロジェクトを行っている。カジノ社はライフサイクルのうち使用段階を含めないが、ルクレール社は含めるなど 2 社で算定方法の取り組み方が異なっており、現在はそれぞれ独自の方法で各社算定を進めている。今後は、商業流通業で 300 製品、衛生・化粧品関係などのパイロットプロジェクトを行うとしており、これらのプロジェクトでは温室効果ガスだけでなく、水・農薬など他の環境影響指標についても考慮される可能性があるとしている。

カジノ社は、2008 年 6 月から食品 8 商品（ヨーグルト、炭酸飲料、生地類）にラベル表示、目標は PB 商品全体への表示としている。また、ルクレール社はフランス北部の 2 店舗で 2008 年 4 月から 2 万点の商品について CFP をプライスカードに表示している。

<sup>4</sup> 新たな環境政策としてフランスのサルコジ大統領が発表した環境に関する懇談会。政府だけでなく、環境 NGO、地方自治体、企業経営者等が一体となって具体的な方策を 6 つのワーキンググループにわかれて検討



企業	環境影響指標	対象店舗	表示媒体	対象商品	算定方法など
カジノ社	CO2 (温室効果ガス)	フランス国内 の全店舗	商品パッケージ	PB商品のみ	・使用段階を含まず ・同系商品でも材料によっ て異なる
ルクレール社	CO2 (温室効果ガス)	フランス北部2店舗	・プライスカード ・レシート	全体	・使用段階を含める ・同系商品であれば同じ (メーカー・材料関わらず)

カジノ社とルクレール社における取り組み方法



カジノ社商品パッケージへの CFP 表示



ルクレール社プライスカード・レシートへの CFP 表示

(出典) JETRO 通商弘報 2008年8月4日 <http://www.consoglobe.com/>

カジノ社では生産・製造・梱包・販売の5ステージについて CFP 算定を行うとしており、使用段階については含めないとしている。これは、カジノ社側で直接的またはサプライヤーを通じてコントロールが可能な範囲についてまず算定するという考え方だという。

データは、Bilan Carbone やカジノ社が依頼したコンサルティング会社のデータ等を使用しており、サプライヤーから適用されるデータはカジノ社の依頼したコンサルティング会社が検証チェックを行っている。



カジノ社における CFP 算定範囲

## CF measurement of products : Available tools in France

	<b>Bilan Carbone</b>	<i>Carbon emissions quantification for companies - <a href="http://www.ademe.fr">www.ademe.fr</a></i>
	<b>Bilan Produit</b>	<i>Free simplified LCA tool with part of Ecoinvent DB - <a href="http://www.ademe.fr">www.ademe.fr</a></i>
	<b>INIES database (LCIA)</b>	<i>Environmental characteristics of building products - <a href="http://www.inies.fr">www.inies.fr</a></i>

フランスにおける CFP 算出ツール

(出典) Product Carbon Footprinting and CO2-Labeling in Europe Dialogue Forum #3

表示内容としては、カジノ社は商品 100g あたりのカーボンフットプリントを表示している。今後洗剤やシャンプーなどの非食品等については、温室効果ガス以外の別指標を含める可能性もあるとしている。

その他表示内容での特徴は、別の商品と比較できるようにその商品の環境影響が 7 段階のどの段階にあるかの表示や、消費者にリサイクル分別回収を促進させるため全ての消費者が分別回収に協力した場合の商品リサイクル率の表示などがある。



### ヨーグルト:

- ・ノーマル 4個パック
- ・バニラ 4個パック
- ・レモン 4個パック

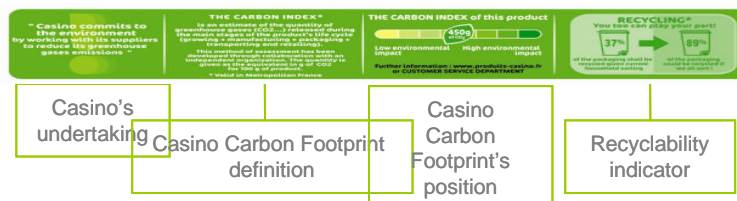
### 炭酸飲料:

- ・ラズベリー&クランベリー
- ・アップル&レイン

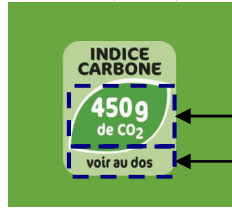
### ミックス(生地):

- ・ピザ
- ・パンケーキ
- ・スポンジケーキ

カジノ社対象商品 (2008 年 6 月時点)



パッケージ表での表記:



商品 100g 当たりのカーボン  
フットプリント数値

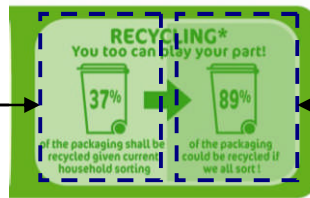
詳細は裏へという指示

パッケージ裏での表記:



商品の環境影響を7段階表示  
で示すためのGreen ruler(異  
なる商品間で比較が可能)

商品の現在  
のリサイクル  
率を表示



全ての消費  
者が分別協  
力をした場合  
のリサイクル  
率を表示











カジノ社対象商品への表示内容

(出典) カジノ社 ホームページよりみずほ情報総研作成

### (3) ドイツの動向

ドイツでは政府の取り組みと民間での取り組みがある。政府の取り組みとしては、ドイツ環境省がカーボンフットプリントの算定方法 (Carbon footprint methodology) を策定中としており、2009年春に取りまとめられる予定となっている。

また、民間では、dm-drogerie markt (ドラッグストアチェーン)、FRoSTA (冷凍食品)、Deutsche Telekom (電気通信) など大手企業 10 社 (下表) が自ら出資を行ってカーボンフットプリントの算定方法を検討するために PCF (Product Carbon Footprint) パイロットプロジェクトを自主的に実施している。運営主体は Eco-institute、コンサルティング会社の THEMA<sup>1</sup> で、算定対象商品は、トイレtpーパー、インスタント食品、接着剤、コーヒー、インターネットルーターなどとなっている。また、2009年1月末にプロジェクトの中間報告が取りまとめられ、ウェブページ<sup>5</sup>で公表された。その中では各社のケーススタディとして、システム境界、データソース、データ品質、アロケーション、バックグラウンドデータ、インベントリ、感度分析などが ISO14040 に沿って報告されている。最終報告書は 2009年3月に公表予定としている。

企業名	企業概要	対象商品
BASF	 化学メーカー (世界的大手企業)	断熱材、染料およびその最終製品
dm-drogerie markt	 ドラッグストアチェーン (ドイツで2番手)	トイレtpーパー
ROYAL DSM N.V.	 ライフ・材料サイエンス	ワインの安定剤
FRoSTA AG	 冷凍食品メーカー (ヨーロッパ最大、冷凍インスタント食品のマーケットリーダー的な存在)	インスタント食品
Henkel	 ホームケア用品、接着剤 (フォーチュン誌のグローバル500社)	粉末洗剤、シャンプー、接着剤、包装密閉剤
REWE Group	 小売・旅行業	イチゴ
Tchibo	 消費財小売会社 (ドイツ最大。コーヒー生産メーカーとしては世界4番手。)	コーヒー、スポーツバッグ
The Tengelmann Group	 小売業	有機卵
Tetra Pak	 食品加工・包装会社 (世界的大手企業)	飲料のボール箱
Deutsche Telekom/ T-Home	 電気通信会社 (世界的大手企業)	ルーター機器及びインターネット通信

PCF パイロットプロジェクト パートナー一覧

(出典) PCF ホームページよりみずほ情報総研作成

<http://www.pcf-projekt.de/>

<sup>5</sup> <http://www.pcf-projekt.de/main/results/case-studies/>

(4) 韓国の動向

韓国では、KOEKO (the Korea Eco Product Institute : 韓国の Type I, III 環境ラベル実施機関) がカーボンフットプリントを環境成績制度 (韓国の Type III ラベル) の一つとして実施予定。

ラベルの名称は Cool Label。現在、航空サービス、洗濯機、飲料など幅広い分野で下記 10 種類の製品についてパイロット認証実施を行っている。まずは温暖化排出量情報マークを運営し、今後 2012 年 1 月から低炭素製品認証マークを運営する予定としている。



温暖化排出量情報マーク



低炭素製品認証マーク

- 2008年8月5日-8日	パイロット認証参加企業の教育
- 2008年10月6日-24日	パイロット認証申請期間
- 2008年12月	パイロット認証式
- 2009年1月	Cool Label Program立ち上げ予定
- 2010年6月	製品群別削減目標提示予定
- 2012年1月-	低炭素製品認証実施予定

スケジュール

<p>ASIANA AIRLINES Air transportation</p>	<p>SAMSUNG CORNING PRECISION GLASS TFT-LCD Glass substrates</p>
<p>CREATOR NAVIEN Gas boiler</p>	<p>woongjin coway Water filtration device</p>
<p>LG Electronics Washing machine</p>	<p>LIVART Wardrobe</p>
<p>AMOREPACIFIC CORPORATION Shampoo</p>	<p>Pulmuone Bean-curd</p>
<p>Coca-Cola Cola</p>	<p>CJ CheilJedang Cooked white rice bowl</p>

認証される製品・サービス

(出典) Cool Label ホームページ

## (5) アメリカの動向

アメリカでは、カリフォルニア州でカーボンラベル法 (The Carbon Labeling Act of 2009) が 2009 年に制定される予定となっている。これは、カリフォルニアで売買される商品の原材料取得から販売に至るまでに排出される温室効果ガスの総量をラベル表示していくためのもの。この法案の中では、The California Air Resources Board (CARB)がそのための方法論・測定方法を策定するとしている。

(出典) The Ruskin Report

<http://democrats.assembly.ca.gov/members/a21/outreach/200812AD21Enews.htm?ut>

## (6) 中国の動向

中国政府によって設立された CECIC (China Energy Conservation Investment Corporation) とイギリスのカーボントラスト社は中国のビジネス・製品に関するカーボンフットプリンティングのフィジビリティスタディを行っている。

また、中国で製造された 10 製品のサプライチェーンでのカーボンフットプリントを PAS2050 を利用して測定するとしている。

(出典) カーボントラスト社 2008 年 7 月 2 日プレスリリース

## (7) EU の動向

EU 委員会が EU 環境ラベル、エネルギーラベルにカーボンフットプリントの追加表示を検討中。

## (8) ISO の動向

ISO (国際標準化機構) におけるカーボンフットプリント制度に関する議論は、2007 年 6 月に北京で開催された環境管理に関する技術委員会 (TC207) の会合の際に、一部の分科委員会で話題に上ったのが始まり。それ以前に、イギリスなどのいくつかの国ではパイロットプロジェクトの開始やルール作りの検討が始まるなど具体的な取組が始まっており、このような動きを受け、ISO においても制度のルールの国際標準化が検討されることとなった。

2008 年 1 月のメキシコシティ会合では、カーボンフットプリント制度の国際標準化の必要性などを議論するワーキンググループ (WG) の設置が決まり、第 1 回 WG が同年 4 月にウィーンで開催された。同年 6 月のボゴタ会合では、我が国がイギリス、ドイツ、アメリカ等と共同でカーボンフットプリント制度の国際標準化作業開始の提案 (NWIP) を行い、加盟国による投票を経て、同年 11 月に承認。

本格的な国際標準化の作業は、2009 年 1 月のマレーシア会合から始まり、約 20 ヶ国 60 名が参加し、カーボンフットプリントの算定及び表示の国際標準化について議論が行われた。我が国からは、専門家 3 名を含む 7 名が参加し、カーボンフットプリントに係る取組等をプレゼンテーションするとともに、国際標準化に対する考え方を WG の議論においても主張した。

次回の会合は、2009 年 6 月にエジプトのカイロで予定されており、最終的には、2011 年 11 月に国際規格が発行される見通しとなっている。

